



1・10・16	水・金・木	生活写真撮影
2	木	交通安全教室(5歳児)
7	火	七夕の集合写真撮影
8	水	笹焼き
9	木	カレーの日
15	水	おべんとうデー
18	土	土曜保育13時まで 夏まつりごっこ(5歳児のみ)14時～
28	火	リトミック(3歳児以上)
30	木	誕生会
31	金	避難訓練



もうすぐ夏やすみ、今年は特に、時の流れが速く感じる。自粛で、耐えるばかりで感動することが少なかったからか？

5月に植えられた稲も、すっかり大きくなり風にそよいで緑の波に。

紫陽花をめぐる間もなく自粛明けと同時に、急に猛暑が続き、プール遊びを楽しむ大歓声。高貴光令者も水着になり、園庭狭しと大暴れ。

もう、真っ黒、そしてグツタリ！

梅雨空のむこうに、夏の太陽と入道雲が出番を待っている

サツマイモの苗が根付いたよ！

- ・5歳児が、1カ月前に2階の畑に植えたサツマイモの苗がようやく根付き、青々と勢いよく生長しています。雑草が生えてきたら子ども達と草取りなどのお世話も行っていきます。秋の収穫が楽しみですね。

今月の予定の中から・・・

- 生活写真撮影(1日・10日・16日)  
・今年、夏祭りごっこの様子を中心に写真屋さん撮って頂く予定です。
- 交通安全教室(2日)  
・今月も、5歳児のみの参加です。信号の見方・渡り方をパネルシアターを見て、学びます。ご家庭でも子ども達と出掛ける時に信号の渡り方などを一緒に確認してくださいね。
- 七夕のクラス写真撮影(7日)  
・園内の笹の葉には、子ども達の短冊や、飾りが色鮮やかに揺れています。子ども達も「さーさーのーはーさーらさら」とロザさみ7月7日を楽しみにしています。七夕の日はクラスごとに集合写真を撮るので、撮影時間をクラスの表示で確認して下さい。
- カレーの日(9日)  
・4・5歳児はエプロンと三角巾の準備をお願いします。5歳児は、先月同様、前日の買い物ごっこ、野菜洗い。当日は釜戸係、野菜運び、カレールー係、配膳・布団敷き係を行います。4歳児もフルーチェの箱から中身を出し、箱をつぶすお仕事をします。
- おべんとうデー(15日)  
・お家の方の手作りお弁当！子ども達が毎月楽しみにしています。暑い日が続いていきますので、お弁当は必ず冷ましてから蓋を閉め、要冷蔵のものやお菓子は入れないようにして下さい。



- 夏祭りごっこ(18日) 5歳児  
・保護者会主催の夏祭りは中止となりましたが、5歳児のみ太鼓と盆踊りを保護者の方に見て頂こうと計画しています。たいようぐみは14時開始、そらぐみは15時15分開始予定です。詳細は後日お知らせします。
- リトミック(28日)  
・日々の保育の中で音に合わせてリズムを感じ、リトミックで表現することを楽しんでいます。音の聞き分けも出来るようになってきました。
- 誕生会(30日)  
・今月もクラス毎でお祝いをしますが、出し物はホールで2クラスずつ、密を避け行う予定です。

**実践知・体験知**

体験を通して、知を得ることが、幼児の成長にとって最も重要だ。自粛解除になったとたんに、ドツと登園が増えた。少々心配になったが、子ども達は広い園庭狭しとばかりに汗びっしょりになり、自由に遊んでいた。今度は熱中症が心配になる。2ヶ月ぶりに登園した子は、すっかり白くなっていった。新入園児の中には、「お母さん」と泣いている子もいた。(何故かフェンスにしがみついている、泣いているお母さんもいた)。見守っていると、門のところから少しずつクラスに近づいて来て、テラスに座って、時折、思い出したように泣く。しばらくすると、殆ど泣いている子はいなくなった。泣いても仕方がないと、徐々に自分に折り合いをつけていく。「折り合いをつけたな」と言う時に、そつと声をかけて、自律を援助する。自分をコントロールする頃合いまで、我慢して暖かく見守ることが大切だ。そして遊びに誘導し、遊び始める。「どう



したの？」「お母さんがいいの？」など、分かり切ったことを、次々と行って、子どもが自分と折り合いをつける時を潰してはいけない。泣くことも大切だ。自分の感情を発散して、思い切り泣く時期もあり、それを乗り越えて、自分をコントロールして、泣き止むことができるようになる。▼ある森の幼稚園でのこと、雪遊びの後、焚火での昼食の際に、3歳児が近くの石の上に手袋を置いた。明らかに焦げてしまいそうなのに、スタップは見ても見ぬふり、案の定焦げてしまった。男の子は泣いたが、スタップは「この前は燃やしてしまったんです」と。用意された成功、整った成功より、自分からチャレンジし、失敗を重ねた方が、自分のものとなり、自信が育てられる。安心して失敗する環境を整え、失敗から得られる成長を保障している。▼新型コロナウイルス感染症への対応を検討する政府の専門家会議の議事録が作成されていなかった。感染拡大を歴史的緊急事態に指定していながらである。カミュの「ペスト」や「歴史上最悪のインフルエンザ」でも、人々は禍が去ってしまうと「何もなかったように、全て忘れ去られた」と言っている。実証的データを示し、エビデンス(根拠)を踏まえた記録があって、後世の人々が対策を企てることができる。日本小児科学会や、アメリカの研究が休園について「感染防止効果は乏しい一方、子どもの心身に及ぼすデメリットが大きい」と報告があった。国内外の感染事例や研究を、科学的、実証的に分析した結果である。これも、やってみて分かったことであり、教訓として生かしていかなければならない「体験知」「実践知」である。

